

カンキツ新品種 ‘佐賀果試5号’ の特性

大原有美子・八田 聡・松尾洋一¹⁾・中村典義・末次信行
(佐賀県果樹試験場・¹⁾ 佐賀県農業試験センター)

Yumiko Oohara, Satoshi Yatsuda, Youichi Matsuo, Noriyoshi Nakamura and Nobuyuki Suetsugu:
Characteristic of new citrus cultivar ‘Sagakasi No.5’

β-クリプトキサンチン高含有で温州ミカンに外観がよく似たマンダリンタイプの晩生カンキツ ‘佐賀果試5号’ を育成したので、育成経過と特性の概要を報告する。

1. 育成経過

1995年に ‘清見’ (宮川早生×トロピタオレンジ) に ‘はるみ’ (清見×ポンカン) を交配し、種子を得た。播種後、実生の育成を行い、結実促進のために1997年に35年生米沢温州 (中間台) に実生93個体を高接ぎした。1999年から結実を開始し、果実品質調査を行ったところ、温州ミカンに外観がよく似ており、また食味が良い個体があった。この系統を継続して調査を行った結果、糖度が高く、無核で、はく皮容易なマンダリンタイプの晩生カンキツであることが確認された。

2. 特性の概要

樹勢は中程度で、樹姿は開張性である。枝梢の長さは中程度で、密度は中である。葉の大きさは中程度で、葉身の形は紡錘形である。花は単生有葉花が中心である。かいよう病およびそうか病は、通常の管理作業を行っていれば問題ない。

果実の大きさは温州ミカンのL玉程度で、重さは150g前後である。果形指数は135程度で扁平である。果皮色は濃橙で、果皮の表面が滑らかである。果皮は薄く、剥皮は容易である。果皮のしまりが良く、浮き皮の発生は少ない。果汁量は中で、す上がりはみられない。肉質は温州ミカンよりやや固いが、食感が良い。じょうのう膜が薄く、また、無核なので、袋ごと食べられる。温州ミカンと比べて芳香があり、‘はるみ’ に近い香りである。1月下旬でクエン酸含量1.4%、糖度が12度であるが、食味は良い。本品種は1月下旬に収穫し、貯蔵後3月から4月上旬に出荷可能なカンキツとして有望と思われる。

また、β-クリプトキサンチン含量を調査した結果、‘佐賀果試5号’ にはβ-クリプトキサンチンが両親 (‘清見’, ‘はるみ’) および温州ミカンより多く含まれており、β-クリプトキサンチン高含有品種としても有望であることが明らかとなった。

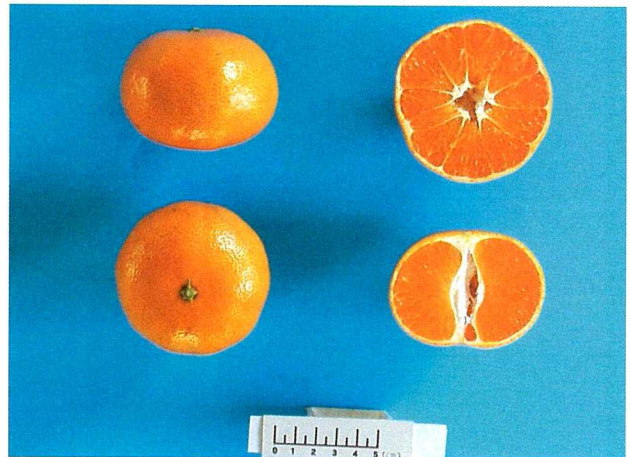


写真1 カンキツ新品種 ‘佐賀果試5号’ の果実

第1表 カンキツ新品種 ‘佐賀果試5号’ の樹態および果実特性

項目	特性	項目	特性
樹勢	中	果汁量	中
枝梢の粗密	中	苦み	無
トゲの多少	少	嗜好性	良
花の多少	中	種子	無
成熟期	2月中旬	貯蔵性	良
果皮厚	極薄	浮き皮	無
果皮の表面	滑	す上がり	無
剥皮の難易	易	香り・量	はるみ・中
じょうのう膜の厚さ	薄	隔年結果性	低

第2表 ‘佐賀果試5号’ の果肉中のβ-クリプトキサンチン含量 (2002年)

品種	mg/100g
佐賀果試5号	1.97
清見	0.30
はるみ	1.47
太幸早生	1.35

第3表 カンキツ新品種 ‘佐賀果試5号’ の果実品種 (2002年)

項目 品種	分析日	横径 (mm)	果形指数	1果重 (g)	果肉歩合	果皮色 ^{a)}	含核数	酸度 (%)	糖度 (brix)	糖酸比
佐賀果試5号	1/16	69.9	138	140.0	86.1	7.5	0.0	1.59	12.6	7.9
清見	1/16	78.2	111	208.4	74.2	5.8	1.4	1.13	9.6	7.1
はるみ	12/25	72.5	115	212.9	79.0	6.8	0.0	1.41	11.9	8.4

注) a) 旧農林水産省果樹試験場作成のカラーチャートによる。